

全科協ニュース

URL <http://www.kahaku.go.jp/jcsm/>

全国科学博物館協議会 ☎110-8718 東京都台東区上野公園 独立行政法人国立科学博物館 Tel.5814-9863 Fax.5814-9898 平成22年3月1日発行 (通巻第231号)

特集：生物多様性の保全と自然史系博物館

2010年10月、生物多様性条約第10回締約国会議が愛知県名古屋市で開催される。生物多様性条約は、周知の通り1992年のブラジル・リオデジャネイロで開催された「環境と開発に関する国際連合会議」(地球サミット)で気候変動枠組条約とともに採択された、生物の多様性を包括的に保全し、生物資源の持続可能な利用を行うための国際的な枠組みだ。今回の締約国会議はこれまでの活動の検証と新たな目標の設定が主要議題となっており、これに合わせ国連により2010年は「国際生物多様性年」となった。

また、我が国は2008年に生物多様性基本法を策定している。この法は、生物多様性保全の理念を示す基本法であり、国に対し生物多様性国家戦略の策定を義務付けるとともに、地方自治体にも生物多様性地域戦略の策定を求めている。最近、生物多様性国家戦略2010や地域版策定のための手引きも示されたところだ。

我々博物館界に、この「生物多様性」というキーワードはどのように関係してくるのだろうか。非常に雑駁ではあるが以下に4点ほどあげてみた。

1. 専門家を要する研究拠点として、日本の生物多様性情報の発信源としての役割
2. 標本をはじめ、各地の生物多様性に関する情報を実際に保持し、また、市民とともに地域の生物相の状況をモニタリングし続ける機関としての役割
3. 自然系部門を有する博物館は、「地域の自然の情報拠点」であり、博物館は生物多様性の保全の必要性をひろめ、その取り組みを広める連携拠点としての役割
4. 地方行政組織では貴重な環境リテラシーを有する専門集団としての役割、さらに今後の地域戦略等の施策形成への関与



2010年 国際生物多様性年

このうち、1に関連するGBIFなど国際的な取り組みについては本ニュースVol.36 No.5でも既に報告してきた。4の地方自治体の生物多様性施策への関与としては、近年、千葉県が千葉県立中央博物館内に生物多様性センターをおき(組織的には県環境生活部自然保護課所属)、博物館のスタッフが兼務するなどの事例もある。また、他県でも博物館職員が自然保護課などと人事交流する事例もいくつかある。博物館の持つ生物多様性情報に注目した取り組みといえよう。

このように、自然系博物館の役割は生物多様性保全の重要性認知とともに拡大しているといえる。各自治体で地域戦略が編まれる中、自然系博物館のミッションを再認識し、内外に示す必要があるだろう。

本特集では生物多様性年を迎えるに当たり、各博物館が自らの活動をアピールし、また強化するために参考となる意見や事例を紹介する。まず、自然保護団体としての博物館への期待を、1、3などの論点とともに廣瀬氏に寄稿いただいた。2に関連して、鈴木氏から県植物誌調査における博物館の役割を、さらに3に関連した普及的役割を県の施策と連携して担う事例を金尾氏から報告してもらう。

(大阪市立自然史博物館学芸員・本紙編集委員 佐久間大輔)

生物多様性の保全が行われている現場が、 博物館に期待すること

(財)日本自然保護協会 保全研究部 部長代行 廣瀬 光子

1) CBD-COP10に向けて世界から日本が求められること

1993年に生物多様性条約 (CBD) を締結して以来、生物多様性の保全という全世界的課題への取組について、日本は国際社会からどのように評価され、また何を求められているのだろうか。高く評価されていることの一つは、世界第1位の条約への資金拠出国であり (全体の22%)、条約実施のために多大な財政的支援を行っていることである。また条約第六条に規定されている生物多様性国家戦略については、1995年に作成して以来二度の改訂を重ね、CBD-COP10に向けて三度目の改訂作業を進めるなど、非常に先進的に取り組んでいる。

一方で2008年にドイツのボン市で開催されたCBD-COP9では、カルタヘナ議定書会議において遺伝子組み換え生物規制に関する枠組みを弱める提案をし、とりわけCBDの欠かせないパートナーとして活躍するNGOからは、敵対的ホスト国などと厳しく非難された一面もある。

10月に愛知で開催されるCBD-COP10は、2010年生物多様性目標の次の目標を定める重要な会議である。日本の自然保護を進める上では大きなチャンスであり、日本は政府だけでなく企業、自治体、研究機関、自然史博物館、そして我々NGOらすべてが国際社会から力量を問われ、次のCOPまでの間は議長国としての責任を果たす必要がある。そこで、CBD-COP10を目前に控えた今、条約締結国をはじめとする国際社会と、日本国内での生物多様性の保全の現場のそれぞれが、自然史博物館に期待していることを紹介したい。

2) CBDの進める国際的な枠組みの中で自然史博物館が期待されている役割

CBDは、中期的な作業計画に基づきさまざまな事業を展開している。中でも自然史系博物館や動植物園との関わり深い事業としては、クリアリングハウスメカニズムや世界植物保全戦略、世界分類学イニシアティブなどが挙げられ

る。ここでは世界分類学イニシアティブ (Global Taxonomy Initiative: 以降、GTIとする) を例に、自然史博物館が期待されている役割について紹介したい。

生物多様性の保全は、地球温暖化防止とともに全世界にとって喫緊の課題だが、日本では未だに生物多様性という言葉さえ知らない人が多い。保全を進めるには、まずは生物多様性とその保全の重要性を一般に分かりやすく伝えることが欠かせない。例えば、ある特定の地域に外来生物が持ち込まれたために、その地域から人間にとって価値ある何らかの種が絶滅した、という具体的な情報をより多く発信しなければ、保全の重要性が広く一般に普及しない。そのためにはまず種を対象とした地域ごとのモニタリングが必要となるが、分類学自体が発展途上であり、また分類できる人材が圧倒的に不足しているという大きな課題がある。その課題を解決するためにGTIが進められてきた。GTIの実施には各種研究機関と大学、自然史博物館が中心的な役割を果たすことが期待されている。

日本では2002年よりタイ・インドネシアを拠点とした途上国との協働によるGTIパイロットプロジェクトを世界に先駆けて実施するなど、アジア地域の生物多様性情報の収集と情報の公開促進に必要な調査を積極的に進めている。一方でまだGTIの活動の知名度は低く、日本では欧米に比べて分類学の専門家が不足しているという大きな課題もある。またGTIの活動やその主旨は、日本の生物多様性保全施策にも大きく関わる。自国の生物の種の多様性の変化を把握するために、日本国内では生物多様性に関するボランティアな市民調査が数多く進められている。専門家だけでなく多数のアマチュア自然愛好家がボランティアに調査に参加することで、膨大な量の生物多様性の情報が蓄積されている。これらのデータを日本国内の生物多様性保全施策に活かすとともに、GBIF (Global Biodiversity Information Facility) 等の国際的な生物多様性情報のデータベースに登録し、自然史資料として管理・活用できるようにすること



「モニタリングサイト1000里地調査の調査講習会の様子」

調査の精度を保ち、また標本資料を残すために、センサーカメラを調査で活用している。カメラの使い方や仕掛け方、仕掛ける場所の選び方などを講習会で伝える。

が、国際的にも期待されている。

3) 保全活動の現場で自然史系博物館に期待されていること～NGOの立場から～

(財)日本自然保護協会は、設立当初から地域の自然に詳しい自然愛好家や自然保護運動を進める数多くの地元住民の方々と協力し、様々な形で生物多様性の保全を進めてきた。その中でも近年力を入れている手法の一つが市民参加型調査である。ここでは当協会が事業の運営を担う市民参加型調査の例として、環境省の事業であるモニタリングサイト1000里地調査の現場で、自然史系博物館に期待することを述べたい。

この調査の特徴は、全国約1,000箇所（里地だけで約200箇所）という多数の地域で、しかも100年にわたる長期間のモニタリングを目指していることである。これだけ多数の地域での調査は、予算的にも専門家だけでの実施は困難となる。そこで里地調査では調査の担い手として、地域ごとの自然愛好家や愛着を持つ場所で保全活動を進めている市民グループが活躍している。調査項目は植物、鳥、中・大型哺乳類、水環境、チョウ類、アカガエル類、カヤネズミ、ホタル類、変化を引き起こす要因としての人為的インパクトなど多岐にわたり、マニュアルの配布と調査の講習によって調査精度を保つ工夫をしている。調査員は全国で1,000人を越え、またこれまでに集まったデータ数は24万件にもなる。

この調査の現場で最も苦勞していることの一つは、調査の結果から分かった生物多様性保全上の危機に対して、必

要な対策が効果的に実施できていないことである。例えば調査で特定外来生物の侵入が初確認された事例では、自治体が対策をとろうとしても、ワナを仕掛ける時期や場所、数などの知識がなく、結果として予算だけが費やされて成果が出ずに、途中で駆除をあきらめてしまうということがあった。今後外来生物対策の知見が積まれてマニュアル化されたととしても、地域ごとに細かな状況が異なり、同じ方法で同じ成果が得られるとは限らない。対策の現場にこそ、地域の自然に最も詳しい自然史系博物館の専門家の力が求められている。

もう一つの大きな問題は、調査時にそれまで確認されていない植物や虫が見つかって、種名がわからないときに、指導できる人間が圧倒的に不足していることである。適切なアドバイスができる人間が近くにいないければ、貴重な発見が埋もれてしまうこともある。博物館に標本の同定を依頼すること自体、何らかのつてでもなければ難しい上に、実際には近くに博物館自体がないところも多い。一般からの同定の依頼を全国の分類学研究者のネットワークでお互いに協力し合う体制をより強化して、全国どこの博物館でも市民が気軽に標本の同定依頼ができる体制を整えれば、日本の生物多様性の解明に向けて大きな一歩が踏み出せるだろう。

生物多様性保全を進めるには、地域ごとに市民と専門家、自治体が協力して、保全を進める体制を作ることが何より欠かせない。今後、私たちNGOが活動する各地の自然保護の現場において、より積極的に自然史系博物館の協力をいただけることを期待したい。

「みんなで作る植物誌」と博物館の幸福な関係をめざして

岩手県立博物館 専門学芸員 鈴木 まほろ

はじめに

生物多様性基礎情報の集積拠点として、地域の博物館が果たしうる役割の重要性はたびたび指摘されている。多くの市民が生物調査に協力し、地域の博物館がコーディネーターおよび活動拠点として機能する一まさに理想的な姿である。例えば『神奈川県植物誌 2001』（神奈川県植物誌調査会2001）が作成されるにあたっては、県立生命の星・地球博物館を中心とする神奈川県のいくつもの博物館が市民の拠点となった（勝山2001）。最近では『高知県植物誌』（高知県2009）が、県立牧野植物園を拠点とする県民の活動によって編まれている。いずれも市民の手で大量の標本が作られ、それをベースとして植物誌が作られた。このような先進的な取り組みにぜひとも追随したいところだが、一方では「あれは神奈川だから（千葉だから、高知だから）できることなんだよ」といったぼやきも聞こえてくる。実際、大小さまざまなハードルを前に、もどかしい思いをしている博物館も多いにちがいない。本稿では、岩手県で現在模索中の活動について紹介し、前進のための小さな材料としたい。

岩手県植物誌調査会の立ち上げ

岩手では今、『岩手県植物誌』（岩手県1970）（以下『植物誌』）の改訂を目指す動きが始まっている。70年代以降、県内の植物相は土地利用の激変を受けて大きく変わった。長年親しまれてきた『植物誌』だが、もはや県内の現状を表しているとは言いがたい。また、近年の分類学的知見を反映したアップデートも必要である。そこで県内の老舗の植物愛好団体が中心となり、2008年に「岩手県植物誌調査会」を立ち上げた。植物分類学を専門にしている者は一人もいない、ほとんどアマチュアばかりの会である。

調査会の立ち上げ当初、会員の間では改訂にあたって新たな標本収集が必要だという認識はきわめて薄く、過去の文献と標本調査、それに現地での目視確認による調査を補

足的に行えば、改訂は容易にできるだろうという声が多かった。1980年代以降、岩手県内には自ら植物標本を作り博物館に寄贈する習慣をもつ人はごくわずかしかなかった。そのため県内の博物館には、80年代以降に採集された標本が非常に少なかった。新しい『植物誌』を学術的に信頼できるものにするには、証拠となる標本がぜひとも必要である。そこで会では、全県的な現地調査により新たな標本を収集する方針を立てた。

とは言え、岩手県は広い。距離にして東西100km・南北170km。あえて面積を比較すれば神奈川県の6倍である。ここで初めて、一般の人々に広く呼びかけ、「みんなで作る植物誌」を目指そうという気運が盛り上がってきた。

一昨年からは、植物に関心のある一般の方々を対象に、市民講座を開いている。午前中に身近な公園で植物を採集し、午後に博物館で標本作成講習を行う。冬には、各自が作成した標本を博物館に集め、整理作業を行いながら、会員の勉強の場としている。また、毎月発行するニュースレターでは、標本作成の意義が分かるような事例を紹介し、啓蒙に努めている。今年もこうした活動を続けつつ、調査協力の呼びかけを行う予定である。

博物館を市民の活動拠点にするには

ところで、岩手県立博物館をこのような活動の拠点とするまでには、いくつかのハードルがあった。当館は1980年に開館した総合博物館で、現在、歴史・民俗・考古・地質・生物・文化財科学の6部門に合計17人の学芸職員を擁する、岩手県および東北地方においては最大規模の博物館の一つとすることができる。が、設置当初の基本構想においては、歴史・美術を扱う人文博物館としての機能が主とされ、自然史分野はあくまで副次的な位置づけにあった。2000年頃から自然史部門の充実が目標として掲げられるようにはなったが、過去の経緯から、特に施設・設備面において、自然史資料の収集・保管機能はきわめて不十分な状

態にある。

一例を挙げよう。一般的な自然史博物館であれば、学芸員の抱える多様な業務の中でも、標本の作成はまず主務として位置づけられるだろう。ところが当館には、筆者が着任した2002年当時、採集した植物の洗浄と乾燥を日常的に行える場所が存在しなかった。前任の学芸員たちは様々な制約の中で細々と標本を作っていた。そこでまず、場所と機器の確保が第一のハードルとなった。

第二のハードルはセキュリティシステムである。博物館が市民の活動拠点となるということは、多様な人間が博物館のバックヤードに頻繁に立ち入ることを意味する。しかし、総合博物館は高価な古美術資料を所蔵するためか、自然史博物館と比較して、バックヤードのセキュリティが厳しい傾向にある。ハード面だけでなく、職員の防犯意識というソフト面でも同様のことが言える。当館では職員以外の人が標本庫に日常的に立ち入りできるようにはなっておらず、これが標本整理作業のハードルとなることがある。建物の構造上の問題はすぐには解決しないので、職員や利用者の意識づけというソフト面での対応によって、所蔵資料を危険にさらすことなく、かつ市民が安心して活動できる仕組みを作る必要がある。

プロセスにこそ意味がある

岩手県植物誌調査会の活動はまだ緒についたばかりである。最大の問題は、広い県内で活動拠点となりうる場所が今のところ当館しかないということである。県内の他の博物館等施設には生物専門の学芸員がおらず、当館よりはるかに制約が多い状況にある。したがって、盛岡から100km以上離れた市町村でどのように調査を進めていくかは、今後の大きな課題として残されている。また、指導者不足も悩ましい問題である。

会の最終目標はもちろん『植物誌』の改訂であるが、現状から考えて、あと何年かかるか見通しを立てることすら難しい。果たしてゴールにたどりつけるのかと、不安を覚えることもある。一方、後進県としては、模索しつつ活動するこのプロセス自体に大きな意義があると筆者は考えている。

これまで述べたように、当県では、博物館の側にも市民の側にも「市民の作った標本が博物館に保管され、それを市民が利用する」という文化がまだ根付いていない。標本に対する植物愛好家の認識が薄かったのも止むを得ないことかもしれない。しかし今後、調査会の活動によって新しい標本が収集され、古い標本の情報が整理され、ともに活用されるにしたい、新たな発見が次々に生まれることだろう。この過程を通じて、標本収集の意義が県民に広く理解されることを期待したい。

この大不況の時代にあっても、「新たな『植物誌』を作る」という明確な目的をもつ調査会の活動は、市民に対して説得力と求心力をもっていることを筆者は実感している。博物館はその活動拠点として存在価値をアピールし、所蔵資料の活用という最も本来的な形で、利用を促進することができる。「みんなで作る植物誌」の活動は、博物館が「見る」だけでなく「使う」施設であり、貴重な資料を未来へ伝えつつ研究する機関でもあることを、ごく自然な形で伝える絶好の機会なのである。

引用文献

- 岩手県教育委員会 (1970) 『岩手県植物誌』
勝山輝男 (2001) 「博物館と市民のネットワークで作る地方植物誌」 遺伝55 (4) : 36-41.
神奈川県植物誌調査会 (2001) 『神奈川県植物誌 2001』
高知県 (2009) 『高知県植物誌』

地域のなかの生物多様性普及拠点として ～滋賀県内の取り組み～

多賀町立博物館 学芸員 金尾 滋史

生物多様性を伝えることの難しさ

2010年10月に愛知県名古屋市において生物多様性条約

第10回締約国会議 (COP10) が開催される。それに合わせて「生物多様性」「COP10」という言葉が各メディアに登

場する機会も増えてきた。生物多様性という言葉自体は広く知られるようになってきたが、生物多様性とは何なのか、なぜ生物多様性が大切なのか、という問いに対して一言で答えることは容易ではない。しかし、もっと気軽に、そして子どもも大人も楽しみながら生物多様性という言葉やその意味を伝えることができる機会はないのだろうか。

その切り口の一つとして、博物館の役割が期待される。実際に大規模な国立、公立博物館などでは、常設展示に生物多様性のコーナーが設置されていたり、企画展も実施されている。しかし、当館も含め中小規模の地域博物館ではそのような特定のテーマに沿った展示には余裕がないのが現状である。そんな折のCOP10は生物多様性というテーマを各地域の博物館で展開する良いチャンスではないだろうか。その一事例として現在滋賀県内で計画されている生物多様性と関連する巡回展、そして地域博物館としてのCOP10との関わり方について紹介する。

博物館が連携する生物多様性の展示

滋賀県では自然環境保全課が中心となり、COP10に合わせた生物多様性保全の普及にむけた事業を展開している。その中でCOP10関連事業検討委員会が組織され、著者も委員に任命された。その委員会で県内に広く生物多様性への関心と興味を呼び起こすために、県内にある博物館、さらに市町と連携しながら生物多様性に関する巡回展を実施してみたい、という提案を行なった。生物多様性に関する調査研究、資料によるバックグラウンドがあり、幅広い年代層への教育・普及・交流分野を取り扱うことのできる博物館が事業に加わることは生物多様性に興味を持ってもらう上で効果が狙える。また、博物館としても巡回展示ならば、それぞれの館の規模やコストにあった展示としてアレンジを施すことが可能であるからだ。この提案が委員会で合意され、2010年4月から各博物館を巡回する展示の計画が始動した。

巡回展では県が生物多様性の解説、滋賀県の生物多様性の特徴、生物多様性と文化など様々な側面から

生物多様性と私達の関わりが紹介されたパネルを製作する。それに加えて展示資料として各博物館や研究機関から提供される展示の趣旨に沿った生物の標本や模型を集約し、パネルと併せて「巡回展キット」を作った。これらの巡回展キットが2010年度の間に県内の自然科学系博物館や市町の市役所、公民館などを巡回し、各地でそのキットを活用した展示が開催される。また、そこでは展示のみならず、各地域で活動している団体、企業などの活動紹介や生物多様性に関わるセミナー、観察会なども開催される予定だ。

地域の博物館ならではの工夫を

著者の所属する多賀町立博物館は滋賀県の東部、犬上郡多賀町に位置する町立の博物館である。当館ではこの巡回展を企画展として位置づけ、巡回展キットをはじめ、所蔵標本や資料を活用して多賀町内そして滋賀県内の生物多様性について紹介する。幸いにも我が町は生命豊かな鈴鹿山脈とそこを源とする河川に囲まれ、さらに全国でも有数の石灰洞が複数存在するため、特殊な生物も見ることができる。町民の利用率が高い当館にとって、生物多様性という一見学術要素の高そうな言葉を伝えていくためには、いかに身近な生物を題材として展示を構成していくかが鍵となるだろう。よりローカルな話題をテーマの入り口とすることは地域の博物館が得意とする分野ではないだろうか。

また一方では、生物多様性の情報蓄積ということで、企



写真1：学芸員と巡るバックヤードツアー。生物多様性情報の収集と発信について伝える良い機会となっている。

画展期間中には収蔵庫などを探検できるバックヤードツアーも開催する予定だ(写真1)。併せてサイエンスミュージアムネット(<http://science-net.kahaku.go.jp/>)を用いた自然史標本情報検索システムやGIBF(地球規模生物多様性情報機構)の紹介も行なうことで、当館の所蔵標本は世界に向けた生物多様性情報にも活用されていることも紹介できるだろう。地域博物館からも世界の生物多様性への発信がなされている、というPRもできるチャンスかもしれない。

手作り巡回展が生み出す効果

滋賀県でこのような巡回展を提案した理由には二つの背景があった。一つは2008年から2009年にかけて行なわれた「鳴く虫巡回展」という巡回展示である。直翅類、いわゆるバッタ・コオロギ・キリギリスの仲間について詳しく知ってもらおうと橿原市昆虫館が日本直翅類学会協力のもと企画したものであり、直翅類写真パネル40点やバッタロデオなどを巡回展セットとして作成した。巡回展にはNPO法人西日本自然史系博物館ネットワークに加盟している6館が参加し、各館がアレンジを加えて企画展を開催した(写真2)。巡回の過程で製作されたパネルなどの展示物は、随時巡回展セットに加えられていくため、その後各館を回る毎に、パネルや展示物が増えていった。当館は5つの館を巡回した後に巡回展を実施したため、内容の充実はもちろん展示に関する費用の削減も可能となった。

どこの館も運営は厳しく、企画展に投資できる費用も多

くはない。そのような中、手作りでコンテンツを追加でき、それぞれの館の特色を活かしながら巡回する「進化型巡回展」は特に中小規模の博物館において今後新しい手法としての可能性を秘めているだろう。

一方で、巡回展には展示に参加する館が必要となる。滋賀県では、自然科学系博物館がそれぞれ手を取り合って、「博物館による環境と科学のフェスティバル」というイベントをショッピングセンターで開催しており、その過程で築かれていった博物館スタッフのネットワークが存在している。

これは当館のような中小館から琵琶湖博物館のような大規模館が、お互いの特色を活かしながら協力しあえるユニークな人的ネットワークである。今回の巡回展示は県から呼びかけたものだが、これに自然科学系博物館の側が素早く対応できたのはこのネットワークがあったからである。このように新しい展示手法とそれを可能にするネットワークがあったからこそ、今回の巡回展示が計画できたと考えている。

生物多様性普及拠点とした地域博物館を目指して

博物館のカウンターに座っていると、「ねえねえ、この生き物なあに?」と地元の子どもが質問にやってくる。そこでは一緒に図鑑で名前を調べたり、その生き物の飼い方について話をし、なるべく子ども達に「なぜ?」という疑問を常に持たせながら会話をしよう心がけている。来館者と博物館スタッフとの距離が近く、コミュニケーションが密に

なることは地域博物館の特徴といえるだろう。今回紹介した巡回展、そしてこのような日常のコミュニケーション機能も活かすことで、地域博物館がちょっと小難しい生物多様性という言葉への入り口になればと考えている。

冒頭にも述べたように、生物多様性という言葉には様々な意味があり、問題の及ぶ範囲も広いいため、一口に答えることは容易ではない。しかし、このような取り組みの中で「なぜ生物多様性は大切なのか?」と疑問を抱いてくれる人がいれば、少しでもその効果があったと言えるのではないだろうか。



写真2：2009年9月に実施した「鳴く虫巡回展」の様子。巡回展セットのほか、多くの博物館で製作されたパネルなども当館で展示した。

■ 展覧会情報

オーストラリア国立海事博物館で、国際巡回展「伝説上の生き物たち：人魚と一角獣」を開催中

会期：2009年12月19日～2010年5月23日

Mythic Creatures: Dragons, Unicorns and Mermaids.

Australian National Maritime Museum, Sydney.

<http://www.anmm.gov.au/site/page.cfm?u=1599>

<http://www.amnh.org/exhibitions/mythiccreatures/>

オーストラリア国立海事博物館で、特別展「南磁極の探求史」を開催へ

会期：2010年7月10日～10月10日

Quest for the South Magnetic Pole.

Australian National Maritime Museum, Sydney.

<http://www.anmm.gov.au/site/page.cfm?u=1391>

英ディスカバリー・ポイント海事博物館で、特別展「写真で見るスコットとシャクルトンの南極探検（ジョージ・H・ポンティング＋フランク・ハーリー写真展）」を開催中

会期：2009年10月2日～2010年4月11日

The Heart of the Great Alone: Scott, Shackleton and Antarctic Photography.

Discovery Point, Dundee.

<http://www.rrsdiscovery.com/index.php?pageID=195>

<http://www.royalcollection.org.uk/microsites/HOTGA/AudioVisual.asp>

英ダンディー科学館で、ヒトゲノム展を開催中

Inside DNA.

会期：2009年10月26日～2010年3月10日

Sensation Science Centre, Dundee

<http://www.sensation.org.uk/>

英ケンブリッジ大学フィッツウィリアム博物館で、企画展「マシュー・ボールドンと産業革命」を開催中

会期：2009年9月22日～2010年3月21日

Fitzwilliam Museum, Cambridge.

<http://www.fitzmuseum.cam.ac.uk/whatson/exhibitions/article.html?1949>

英ケンブリッジ大学フィッツウィリアム博物館で、マギー・ハンプリング海景展を開催へ

会期：2010年4月27日～7月18日

Fitzwilliam Museum, Cambridge.

<http://www.fitzmuseum.cam.ac.uk/whatson/exhibitions/article.html?2127>

英マンチェスター大学博物館で、特別展「チャールズ・ダーウィンの生涯」を開催中

会期：2009年10月3日～2010年8月30日

Charles Darwin: Evolution Of A Scientist.

The Manchester Museum, Manchester.

<http://www.museum.manchester.ac.uk/whatson/exhibitions/theevolutionist/charlesdarwinevolutionofascientist/>

英マンチェスター博物館で、企画展「ダーウィンが見た南アメリカの自然（ベン・ホール写真展）」を開催中

会期：2009年9月5日～2010年1月31日

In Darwin's Footsteps.

The Manchester Museum, Manchester.

<http://www.museum.manchester.ac.uk/whatson/exhibitions/theevolutionist/indarwinsfootsteps/>

英マンチェスター大学博物館で、企画展「写真で見るマンチェスター博物館のシロクマの剥製（マーク・ウィルソン写真展）」を開催中

会期：2010年2月13日～7月11日

nanoq: flat out and bluesome.

The Manchester Museum, Manchester.

<http://www.museum.manchester.ac.uk/whatson/exhibitions/theevolutionist/nanoq:%20flat%20out%20and%20bluesome/>

英ロンドン国立自然史博物館で、特別展「深海の生物」を開催へ

会期：2010年5月28日～9月5日

The Deep.

Natural History Museum, London.

<http://www.nhm.ac.uk/visit-us/whats-on/coming-soon/the-deep/>

英グリーニッジ国立海事博物館で、企画展「太陽についてのななし」を開催中

会期：2010年1月16日～5月9日

Solar Story: understanding the Sun.

National Maritime Museum, Greenwich.

<http://www.nmm.ac.uk/visit/exhibitions/on-display/solar-story/>

英ロンドン国立科学博物館で、企画展「イスラム科学の1001年」を開催中

会期：2010年1月21日～4月25日

1001 Inventions: discovering the muslim heritage in our world.

Science Museum, London.

<http://www.1001inventions.com/><http://www.1001inventions.com/node/165>**英ロンドン国立科学博物館で、企画展「天文学の発達」を開催中**

会期：2009年7月23日～2010年12月30日

Cosmos & Culture: how astronomy has shaped our world.

Science Museum, London.

http://www.sciencemuseum.org.uk/visitmuseum/galleries/cosmos_and_culture.aspx?science**米ジョージア・サザン大学博物館で、企画展「世界の書記体系」を開催中**

会期：2009年12月18日～2010年4月18日

Glyphs and Scripts: Writing Systems of the World.

Georgia Southern Museum, Statesboro.

<http://calendar.georgiasouthern.edu/event?id=6668>**米フィールド自然史博物館で、企画展「フィールド自然史博物館における昆虫採集の105年」を開催中**

会期：2010年2月7日～

Insects: 105 Years of Collecting.

Field Museum, Chicago.

http://www.fieldmuseum.org/exhibits/insects_tempe_xhib.htm**米太平洋科学館で、巡回展「火星探査」を開催中**

会期：2010年1月30日～5月9日

Facing Mars.

Pacific Science Center, Seattle.

<http://www.pacsci.org/facingmars/>**米タンパ科学産業博物館で、国際巡回展「ダ・ヴィンチ」を開催中**

会期：2010年2月10日～5月31日

Da Vinci: the genius.

Museum of Science and Industry, Tampa.

<http://www.mosi.org/Davinci.htm><http://www.davincithegenius.com/>**エクスポレーション・プレース科学館で、巡回展「ゲノムとプロテオーム」を開催へ**

会期：2010年5月1日～9月5日

The Geeel in Genome.

The Exploration Place, Prince George, Canada.

<http://www.theexplorationplace.com/>http://nature.ca/genome/06/061/061_e.cfm**オークランド博物館で、特別展「薔薇の世界」を開催中
Wonderland: The Magic of the Rose.**

会期：2009年12月4日～2010年4月16日

Auckland Museum, Auckland NZ.

<http://www.aucklandmuseum.com/?t=1191>**■常設展情報****米シカゴ科学産業博物館で、新しい常設展「人体の科学と健康」を開設**

公開開始：2009年10月8日

YOU! The Experience.

Museum of Science and Industry, Chicago.

<http://www.msichicago.org/whats-here/exhibits/you/>**米シカゴ科学産業博物館で、新しい常設展「嵐の科学」を開設へ**

公開開始：2010年3月10日

Science Storms.

Museum of Science and Industry, Chicago.

<http://www.msichicago.org/about-the-museum/press/science-storms/>**米フランクリン科学博物館で、常設展「電気」をリニューアル・オープンへ**

公開開始：2010年3月27日

Electricity.

The Franklin Insititute, Philadelphia.

<http://www2.fi.edu/exhibits/permanent/electricity.php>**米フランクリン科学博物館で、常設展「地球の科学」をリニューアル・オープンへ**

公開開始：2010年3月27日

Changing Earth.

The Franklin Insititute, Philadelphia.

<http://www2.fi.edu/exhibits/permanent/changing-earth.php>

*(やすいりょう) E-post: rgyasui@gmail.com

3月4月の特別展

開催館	展覧会名	開催期間
札幌市青少年科学館	「サイエンジャーのワンダーランド～春～」	3月20日～4月4日
岩手県立博物館	第62回企画展「病をいやす～くすり・まじない・神だのみ～」	3月27日～5月5日
秋田県立博物館	企画展「学芸員屋台村～秋田の食を考える～」	12月19日～5月16日
山形県立博物館	企画展「貝の世界-加藤繁富コレクション-」	3月16日～5月9日
ふくしま森の科学体験センター	春休み企画展「マグネット展」	3月17日～4月4日
郡山市ふれあい科学館 'スペースパーク'	ホワイエ企画展「オーロラ紀行」	2月2日～3月31日
	ホワイエ企画展「太陽のすがた」	4月2日～6月30日
	春休み特別企画「ロボットで遊ボット!」	3月24日～4月5日
つくばエキスポセンター	「美しい蛍光の世界-ウランガラス・宝石・LED・生物」	3月20日～5月9日
日立シビックセンター科学館	巡回展「月のふしぎ」	3月20日～4月11日
	特別展「きてみてさわってためそう 感覚ひろば」	3月20日～5月5日
栃木県立博物館	企画展「つくる、えがく、しるす -歴史からの贈り物-」	4月24日～6月15日
	テーマ展「縄文時代のまつりと道具」	1月9日～4月4日
	テーマ展「小泉斐の小宇宙」	2月20日～4月4日
わくわくグランディ科学ランド	地球環境展 めざせ!エコ博士～君からはじまるエコロジー～	3月20日～4月11日
高崎市少年科学館	世界のおりがみ展～護ろう世界遺産Ⅱ	3月16日～3月31日
群馬県立自然史博物館	第35回企画展「むし 虫 ウォッチング」	3月13日～5月5日
鉄道博物館	第4回企画展「雪にいどむ」	12月19日～4月11日
狭山市立博物館	春期企画展「魅せる…女性を彩る服飾と美容」	3月13日～6月6日
埼玉県立自然の博物館	企画展「野外の危険なもの」	2月13日～5月9日
	伝説の博物館、記念ミニ展示	2月20日～5月9日
千葉市科学館	春の企画展「時間旅行展 TIME! TIME! TIME!」	2月26日～4月4日
千葉県立中央博物館	春の展示「雲南の地衣類」	3月13日～5月9日
	生態園トピックス展「生態園の植物・四季の見どころ」	3月16日～5月16日
千葉県立現代産業科学館	「すごいゾ!鉄 -はじまり・伝統・最先端-」	2月4日～3月14日
逓信総合博物館	春のコミュニケーションワールド「海の謎!? おもしろ王国」	3月13日～3月28日
NHK放送博物館	放送前史	2月2日～4月18日
	がんばろうふるさと 全国NHK放送局展 ～大津放送局・津放送局～	3月9日～5月5日
	「坂の上の雲」の時代～日露戦争従軍騎兵将校の遺した水彩画～	3月24日～6月27日
地下鉄博物館	「メトロネットワークの変遷展-相互直通運転の歴史」(仮称)	3月16日～4月18日(予定)
多摩六都科学館	春の特別企画展「トリックアート展」	3月20日～4月18日
電気の史料館	企画展「尾瀬と東京電力 ～尾瀬の魅力と自然保護の歴史～」	3月19日～6月20日
はまぎんこども宇宙科学館	企画展「ピンホールカメラと◇キラリ◇光のあそび展」	3月6日～6月13日
神奈川県立生命の星・地球博物館	子ども自然科学作品展	3月20日～4月4日
	学芸員の活動報告	4月17日～5月30日
新江ノ島水族館	世界に誇る相模湾～深海に至る生物多様性とその地質を探る～	2月6日～3月19日
	3月のテーマ水槽「さくらのたより」	3月1日～3月31日
糸魚川市フォッサマグナミュージアム	特別展「おめでとう世界ジオパーク展」	開催中～4月上旬(予定)
立山カルデラ砂防博物館	特別展「映像で見る立山・立山カルデラ・砂防」	2月16日～3月14日
黒部市吉田科学館	巡回写真展「富山県ナチュラリスト協会写真展」	3月20日～4月18日
福井市自然史博物館	第69回特別展「足羽山を彩るギフチョウと春の昆虫」	3月20日～5月23日
佐久市子ども未来館	開館9周年記念特別企画展「DINO PARTS LABO 恐竜のからだのパーツをみてみよう!」	3月13日～5月5日
岐阜県博物館	春休み企画展示「博物館で“春”みいーつけた!」	3月20日～4月11日
	資料お披露目「博物館で“お宝”みいーつけた!」	4月10日～5月16日
	マイミュージアムギャラリーの展示「老大師墨跡・茶道具・床置展」	4月1日～5月9日
大垣市サイトピアセンター学習館	大西浩次 風景写真展「時空の地平線」	1月16日～3月31日
中津川市鉱物博物館	第25回私の展示室「郷土の植物たち-中津川市福岡-」	12月19日～3月20日
	第26回私の展示室「恵那のシダ植物」	3月28日～5月16日
富士川楽座	巡回展「台風がやってきた!」	2月27日～4月4日
東海大学自然史博物館	特別展「海にもどった哺乳類・クジラ」	1月1日～4月4日
ディスカバリーパーク焼津	特別展「手作りおもしろ科学展」	3月20日～5月30日
豊橋市自然史博物館	「平成21年度 新しく博物館にきた標本展」	3月6日～4月4日
トヨタテクノミュージアム産業技術記念館	トヨタコレクション企画展「絵画・工芸」	3月20日～5月9日
名古屋市科学館	企画展「名古屋城を科学する 3」	3月20日～4月4日
	企画展「電気をつくろう」	12月16日～4月11日
	プレCOP10企画展「肉食恐竜マブサウルス～生命の絶滅と多様性」	12月5日～3月14日
あいち健康プラザ 健康科学館	冬の特別展示「超なりきり忍者道場」	開催中～3月7日
	春の特別展示「あっぱれ!戦国武将」	3月20日～6月27日
トヨタ博物館	企画展「マンガとクルマ」	10月10日～3月7日
	企画展「スモールカー大集合」(仮題)	3月19日～6月27日(予定)
ミキモト真珠島 真珠博物館	特別企画展「完全版 東海道五十七次 江戸・日本橋から浪花・京橋へ」	4月23日～平成23年4月3日
交通科学博物館	企画展「～King Of Hobbyへようこそ～ 鉄道模型の世界」	3月20日～5月30日

開催館	展覧会名	開催期間
きしわだ自然資料館	「チリモン積もって山となる～これがチリメンモンスターだ!」	1月19日～3月14日
神戸市立青少年科学館	春の企画展「天気のみみつ」展	3月20日～5月5日
伊丹市昆虫館	企画展「ごきぶり」	2月10日～4月5日
姫路科学館	特別展「カジル展～歯を通してみる動物の姿～」	3月20日～5月10日
鳥取県立博物館	美術常設企画展示「若き日の鳥取の画家たち」	3月5日～4月4日
出雲科学館	日時計の楽しみ(巡回展)	3月2日～3月28日
広島市健康づくりセンター健康科学館	企画展「足にまつわる健康展 今・昔 足は第2の顔「足の健康雑学」	2月27日～7月11日
防府市青少年科学館 ソラール	特別展「さわってびっくり! わくわくサイエンス」	2月6日～3月7日
	特別展「宇宙の謎を解き明かす」	4月24日～6月6日
徳島県立博物館	企画展「ヒマラヤー自然と人々のくらしー」	4月29日～6月6日
徳島県立あすたむらんど子ども科学館	企画展 南極発! ピンターからのメッセージ!!	3月20日～4月6日
	「PINGU the Art World」	
愛媛県総合科学博物館	企画展「昔のおもちゃ・現在の玩具」	2月27日～4月11日
佐賀県立宇宙科学館	企画展「川と海を旅する魚たち」	3月20日～5月9日

お詫びと訂正：前号 (Vol.40 No.1) の「1月2月の特別展」において、立山カルデラ砂防博物館にて開催の展覧会を「巡回展」として掲載しましたが、「特別展」の誤りでした。関係各位にご迷惑をおかけして申し訳ありません。ここに訂正させていただきます。

【リニューアル】

浜松科学館

[更新箇所] 音のコーナー

- [新展示物] ①ボイス・トランスフォーマー (声の変身を試す)、
 ②バーチャル・ドラム (打楽器が作り出す音の不思議)、
 ③ミュージック・アニメ (音と映像のシンクロ)

[寄贈者] ローランド (株)

[公開日] 平成21年12月17日



[更新箇所] 力のコーナー

[新展示物] 「パワーアシスト つなひき」 (パワーアシスト技術を使ったつなひき)

[寄贈者] ヤマハ発動機 (株)

[公開日] 平成21年12月25日



つくばエキスポセンター

[更新箇所] 2階展示場

[更新面積] 約722㎡

[公開日] 平成22年1月16日

[工期] 平成21年11月25日～平成22年1月14日

[施工業者] (株) ムラヤマ



多摩六都科学館

[更新箇所] 展示室5 地球の科学

[新展示物] 「地球をめぐる水」

[展示面積] 約23㎡

[公開日] 平成22年3月7日 (予定)

[工期] 約半年

[設置業者] 中央宣伝企画 (株)

[総工費] 約500万円



(完成予想図)

より良い「社会交流空間づくり」にむけて—。

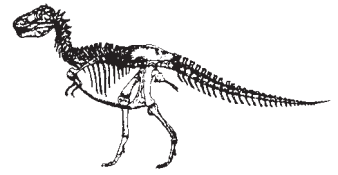
調査・企画・デザイン・設計・制作・施工・監理・
運営およびコンサルティング・プロデュース



株式会社 丹青社 〒110-8549 東京都台東区上野5-2-2
TEL.03-3836-7221(代表) http://www.tanseisha.co.jp
札幌・仙台・名古屋・大阪・福岡・那覇

*ISO14001認証取得・プライバシーマーク認定取得

※世界の化石・
鉱物・恐竜・化石
人類・動物骨格
標本及び模型の
輸入専門業者



ティラノサウルス・REX

株式会社 **ゼネラルサイエンス**
コーポレーション

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802
TEL 03 (3583) 0731代表 FAX 03 (3584) 6247

高品質表現力

文化施設・商業施設・動・ディスプレイ・デザイン・制御演出・施工



株式会社 **ココロ**

〒205-8556 東京都羽村市神明台4丁目9番1号
TEL: 042-530-3939 FAX: 042-530-4050
http://www.kokoro-dreams.co.jp/

小さなボディーに大宇宙を詰め込んだ、最新デジタルプラネタリウムシステム

メディアグローブII (MEDIAGLOBE-II)

メディアグローブIIは世界で初めてフルカラー投影を可能にした
小型デジタルプラネタリウム”メディアグローブ”の後継機種。
地上で見られる星空の投影だけでなく、3D天文データベースに
よる宇宙旅行シミュレーションまで可能になりました。星空自動
解説機能、簡単操作で番組を自作できる機能やマクロボタンなど
使い易さも格段にレベルアップして運営面もご心配りしません。
小規模スペースに神秘的な大宇宙をお届けします。



コニカミルタ プラネタリウム株式会社

東京事業所 〒173-0003 東京都板橋区加賀 1-6-1
大阪事業所 〒550-0005 大阪市西区西本町 2-3-10 西本町インテス 11 階
東海事業所 〒442-8558 愛知県豊川市金屋西町 1-8

TEL (03) 5248-7051
TEL (06) 6110-0570
TEL (0533) 89-3570

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

ミュージアム・ショップ向/教育用地学標本



since 1974

地学標本/化石・鉱物・岩石
古生物/レプリカ・復元模型
恐竜復元モデル

◆常設ショールーム: 紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL. 03(3354)0131 (代表) ◆

Fossils, Minerals & Rocks

株式会社 **東京サイエンス**

TEL.03-3350-6725 FAX.03-3350-6745
http://www.tokyo-science.co.jp
E-mail:info@tokyo-science.co.jp

〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イウォ・アネックスビル

Practical Specimens for Study of Earth Science

NOMURA

人が集う場、
そこにはいつも
楽しさとか、
おどろきとか、が
溢れています。



Prosperity Creator
NOMURA
http://www.nomurakougei.co.jp/

集客環境づくりの調査・コンサルティング、
企画・デザイン、設計、制作施工
ならびに各種施設・イベントの活性化、運営管理

株式会社 **乃村工藝社**

本社: 東京都港区台場2-3-4 Telephone 03-5962-1171 (代表) 〒135-8622
営業拠点: 札幌・仙台・大阪・岡山・広島・高松・福岡・那覇・ニューヨーク・北京・上海

Panasonic
ideas for life



パナソニックだから、
可能なソリューションがある。

Core Products

- Security
- Cross Media
- Mobility

Total Solution

- コンサルティング営業
- SIアプリケーション開発
- 施工・設置
- 保守・メンテナンスサービス
- 運用サービス

Challenge to Change! パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社

詳しくはホームページで panasonic.co.jp/pss/pss/j/

全科協ニュース編集委員会

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 資料課長

國府田良樹

大阪市立自然史博物館 学芸課学芸員 佐久間大輔

科学技術館 企画広報室室長 田代英俊

国立科学博物館 事業推進部 連携協力課長 亀井 修

全科協事務局

国立科学博物館 事業推進部 連携協力課 守井

Tel.03-5814-9863 Fax.03-5814-9898

発行日 平成22年3月1日

発行 全国科学博物館協議会©

〒110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内

印刷 島崎印刷株式会社